

【視察調査報告書】

会 派 名	八王子の食と農を守る
参 加 議 員	【議員】 1名 船木翔平
日 程	令和5年(2023年)11月1日(水)
詳 細	
視察日及び視察先	11月1日(水) 東京都 昭島市
視 察 内 容	農業政策について 森林環境譲与税の取り組みについて
概 要	<p>昭島市は水が豊かな町として有名で、土地は平らで、多摩川と玉川上水が流れる市です。市街化調整区域は、多摩川沿いにごく僅か5,000㎡ほどで、大半は市街化区域にある生産緑地の農地が点在しております。江戸東京野菜では「拝島ネギ」の取り組み(農家9軒)をしております。</p> <p>昭島市がやっている農業体験は、1年間通じてお米作りを体験する「親子農業体験教室」があります。</p> <p>他、昭島市が運営する市民農園は全部で43区画、農家が運営する体験農園は4軒の農家が運営しております。</p> <p>11月11日(土)・12日(日)には「産業まつり」が開催されます。</p> <p>森林環境譲与税の取り組みは、市内に森林が無いため、国産材の利用を中心に活用してました。市内の保育園やアキシマエンスの内装に木材を利用してました。また、友好都市の岩手県岩泉市との交流事業を実施しております。岩泉市の木材を使ったもの利用や昭島市の子供達が岩泉市へ行き、様々な体験をする事業が行われています。その中で岩泉市とのホームステイ企画も実施しております。</p> <p>他、水の繋がり源流となる奥多摩町や山梨県小菅村とも交流があるとの事でした。</p>
所 感 等 (意見・課題・本市への反映など)	<p>昭島市立光華小学校では、5年生が江戸東京野菜の「金町コカブ」と「品川カブ」の栽培を行っており、江戸東京野菜「光華かぶ株式会社」を作り、クラス毎に育成課、記録・広告課、レシピ課、江戸研究課、SDGs課として、業務に取り組んでいます。生産から、その後の調理や伝えることまで、生徒が自発的に取り組み教育の一環として行うことは、大変面白い取り組みでした。八王子市市内でも教育に取り入れる際は、生徒たちがどのような自発的に取り組めるようにするか、必要であると思いました。</p> <p>森林環境譲与税の取り組みについては、友好都市や多摩川流域の市町村との取り組みがあり、特に岩泉市とのホームステイの取り組みについては、互いを知る経験として大変よい取り組みであり、参考になりました。</p>

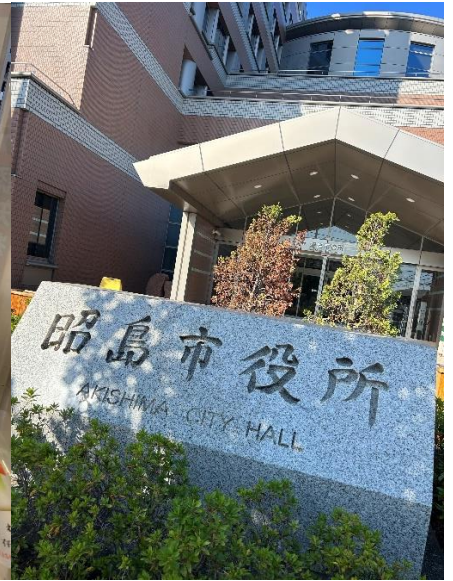
視察の様子



昭島市議会 議場にて



市役所内展示品



昭島市役所前

会 派 名	八王子の食と農を守る
参 加 議 員	【議員】 1名 船木翔平
日 程	令和5年(2023年)11月7日(火)
詳 細	
視察日及び視察先	11月7日(火) 山梨県 上野原市
視 察 内 容	農業政策について 空き家対策について
概 要	<p>◎農業について 上野原市の農業は、山間部が多く農業の効率化がなかなか難しい地域ではありますが、中央道の談合坂SAを中心に販売ルートを作り、生産をしている。また市営の貸し農園では、市外(県外)の利用者もおり、八王子市や都内の状況とは大きく異なりました。</p> <p>◎森林環境譲与税の取り組み 市内の森林の整備を中心に行い、また体験事業も行っております。市営のキャンプ場での森林体験や平塚市の漁業組合との繋がりで上野原市産材のベンチ作りなど行なっておりました。今年は、更に平塚市とも連携した取り組みを模索中の様です。</p> <p>◎空き家バンクと空き家活用 上野原市には、空き家バンク制度があり、空き家活用についても積極的に動いております。 空き家バンクのサイトには、物件の写真、概要、金額も記載されている。空き家バンクの登録は、物件所有者に対しての固定資産税の通知書に「空き家バンク制度」の案内を同封したりして登録を促し、上野原市がマッチング作業も行います。 実際の貸借契約等は、不動産業者を通して行なってまいります。 最近では、空き家だけでなく、土地、店舗なども含めて紹介しているそうです。また空き家改修補助金もあります。 そのお陰で、上野原市の転入人口が増加傾向にあります。 ちなみに、この「空き家バンク制度」の運用は、政策秘書課が担当しております。</p>
所 感 等 (意見・課題・本市への反映など)	上野原市は、山間地域が多く農業分野においては、生産効率化や規模拡大は、なかなか難しい環境ではありますが、森林や空き家の活用を兼ねて、山間地域の活性化として取り組めば、魅力ある地域を作ることができると感じました。また、空き家バンク制度も仕組化して、インターネット上でも拝見する事ができます。現在は、土地、店舗なども情報が挙がっており、転入人口の増加にも寄与している様子です。このような行政による積極的な土地所有者に対しての

アプローチや取り組みは、過疎化地域の危機感の現われでもあり、見習うべき点と思いました。

この「空き家バンク制度」の運用する政策秘書課の臨機応変に対応する体制は、市内の課題解決においても重要な役割を果たしていると思いました。

市役所外の見学として、上野原市所有で指定管理者制度を利用して2023年7月オープンの「ミューの森」。こちらは、イオングループがリニューアルして、グランピング、宿泊、体験できる森として、生まれ変わりました。このような企業との連携についても、単にハード面の改装だけでなく、ターゲティングや人材確保などの面においても、行政と民間事業者が共に取り組む体制が今後の可能性を切り拓くと感じました。

視察の様子



①

②

③

③

① 上野原市役所

② 上野原市議会議場

③ 上野原市指定管理施設「ミューの森」

会 派 名	八王子の食と農を守る
参 加 議 員	【議員】 1名 船木翔平
日 程	令和5年(2023年)11月7日(火)
詳 細	
視察日及び視察先	11月7日(火) 山梨県 小菅村
視 察 内 容	森林環境譲与税の取り組みについて
概 要	<p>小菅村は、村の人口は、600人。多摩川の「源流」として村づくりを進めております。農大を中心に展開した源流大学や、最近ではNIPPONIAの宿泊施設やビール工房などあります。</p> <p>小菅村の特徴としては、民間の「林政アドバイザー」を雇い、小菅村全体の森林コーディネート、プロデュースを行なっている。この林政アドバイザーの存在は、大きいと思います。林政アドバイザーのネットワーク、現場と行政との繋ぎ役、企画力が大変良い影響を与えています。</p> <p>また、この村をどうやって発展させるか、住んでもらうか、村長も村役場職員も民間事業者も一緒になって考えて行動している様に思います。</p> <p>村役場の後、新しくなった小菅の湯の薪ボイラーも見学させていただきました木材を伐って出し、薪に割り、乾燥させ、ボイラーに入れる。その作業一つ一つにも工夫やスキルが必要であり、単に仕組みを構築しただけでは、うまくいかない。森林の活用については、本来の木材利用を進める必要があります。現在は、薪ボイラーの他にも、森林で体験できる場として、マウンテンバイク、トレッキング、トレイルランニング、アスレチック(フォレスト・アドベンチャー)の整備をし、その先にマテリアル部門の木材製品力を高めていく計画です。</p> <p>その進める上で、森林所有者の不明が課題となっております。小菅村は、所有者のほとんどが村内にいる為、割とコミュニケーションが取りやすいそうです。</p> <p>ちなみに、小菅村の森林の約2/3は、東京都が水源林として所有しており、管理しております。</p> <p>あと、小菅村の得意とするのは「地域おこし協力隊」の制度をうまく使って人材を入れている事ですね。</p>
所 感 等 (意見・課題・ 本市への反映など)	<p>小菅村は、大半が森林に覆われており、また水源確保として東京都が所有する森林が全体の2/3を占めております。その森林の政策においてキーパーソンとなる存在が「林政アドバイザー」です。林政アドバイザーが行政の計画と民間の取り組みの橋渡し役となり、小菅村で実行可能な森林行政から事業への取り組みのコーディネートも行っております。また、民間事業者同士のネットワークも上手く活用し、東京都内での取り組みや近隣市町村での取り組みを参考にして、またすぐに事例を取り入れて実行する原動力ともなっております。八</p>

王子市も全体面積の4割が森林に覆われており、八王子市としての森づくりや活用は、進める必要があると思います。来年度から森林環境譲与税から森林環境税として始まることもあり、行政独自の取り組みも注目される点と思いますので、小菅村の取り組みも参考にしながら、八王子市の森づくりを進めたいと思います。

視察の様子



小菅村役場



薪ボイラー用の薪



小型製材機



木製MTBコース

会 派 名	八王子の食と農を守る
参 加 議 員	【議員】 1名 船木翔平
日 程	令和5年(2023年)11月10日(金)
詳 細	
視察日及び視察先	11月10日(金)東京都檜原村
視 察 内 容	森林環境譲与税の取り組みについて 不登校の対策 農業政策について
概 要	<p>◎森林環境譲与税の取り組み 檜原村は森林面積が多い為、森林産業を中心に展開を支援しており、「ひのはら緑(力)」という10年計画を作り、森林整備を進めています。それも村が一方的に行うのではなく、村民が自発的に行う事業もあります。また林業分野においては、新しい組合の存在が大きいと感じました。「檜原村木材産業協同組合」が数年前にでき、森林産業の動きを活発にさせる潤滑油として、大きな影響を与えていると思いました。この前日に新宿で行われていた多摩産材利用拡大フェアでは、檜原村の材を活用している企業がいくつか目につきました。この組合は、檜原村に本社を置く企業だけでなく、檜原村の木材を活用して取り組む企業が集まり、情報共有やコミュニケーションを取りながら、檜原村の材を売るマーケットを作っています。</p> <p>◎農業政策について 農業については、なかなか平地が無い農地では生産規模を広げる事が出来ず、なかなか難しいところがあります。檜原村は、専業農家がほぼ無く、農業委員会自体も数年前に解散して、農業委員会が存在せず、代わりに農業推進協議会があり農家3人で構成する協議会で話し合われています。</p> <p>◎教育分野(不登校の対策) 檜原村は、小学校1校、中学校1校で自然と少人数制のクラスとなり、コミュニケーションが取られていると思いました。</p>
所 感 等 (意見・課題・本市への反映など)	檜原村は、人口が少なく規模も行政体制も全く異なるものではありますが、森林行政においては、村民の意識も違い、特に身近な森づくりを自発的に行動している点は、檜原村のポリシーを感じました。また、「檜原村木材産業協同組合」は、檜原村の営業隊のような存在でもあり、檜原村の木材利用の開発研究も活発に行えるきっかけでもあり、ネットワークを拡げる有意義な組合組織と思います。八王子市において、何か事業連携を行う上で、目的を共有して地域の産業振興にも繋がる現代の新しい組織として参考にする点がありました。農

業分野においては、山村ならではの課題もあり、山村全体の課題解決・地域活性化を考える必要があると改めて感じました。
また、教育分野においては、顔の見える、きめの細かいコミュニケーションを大切にした教育は、不登校の問題解決に有効と思います。ただ、それは、学校だけでなく、地域の中でのコミュニケーションもとても大切だと感じました。

視察の様子



檜原村役場

視察研修会場